

## エミュレータデバッガ M3T-PD45M V.1.20 Release 00への リビジョンアップのお知らせ

4500シリーズ用エミュレータデバッガM3T-PD45MをV.1.10 Release 2からV.1.20 Release 00にリビジョンアップしました。

### 1. リビジョンアップ内容

#### 1.1 新機能

- (1) 使用するコンパクトエミュレータを選択できる機能を追加しました。
- (2) 4508および4509 グループマイコン用コンパクトエミュレータ M34509T2-CPE が使用可能になりました。
- (3) 下記のMCU (4508および4509 グループ) 用データファイルを追加しました。
  - M34508G4.DAT : 4508グループ用
  - M4508G4H.DAT : 4508グループ (Hバージョン) 用
  - M34509G4.DAT : 4509グループ用
  - M4509G4H.DAT : 4509グループ (Hバージョン) 用

#### 1.2 改修内容

- (1) レジスタウィンドウまたはRegisterコマンドを用いてZ, X, またはYレジスタにデータポイント範囲外の値を指定した場合、エラーとなる問題を改修しました。
- (2) メモリウィンドウのウィンドウサイズをターゲットプログラム実行中に変更した場合に、ターゲットプログラムが停止する場合のある問題を改修しました。
- (3) カバレッジウィンドウのラベル表示領域に表示されるラベル名が、ターゲットプログラムの再ダウンロード時に更新されない問題を改修しました。

### 1.3 仕様変更内容

Z, X, またはYレジスタの値がデータポインタの範囲外(\*)を指す場合、データポインタが指し示すRAMに格納されている値をレジスタウィンドウに表示しないように変更しました。

これにより、エミュレータ起動時にX,Y,Zレジスタの値が、デバッグ対象となるMCUのデータポインタの範囲外を指し示す場合に、「ERROR 1400:指定したメモリが範囲外です」というエラーが表示されることがなくなります。(X,Y,ZレジスタはMCUの仕様によりリセット解除後不定ですのでデバッガ起動時には範囲外の値が表示されることがあります。)

- \* Z, X, およびYレジスタは、RAM領域の特定の位置を指し示すデータポインタとして使用します。データポインタの範囲は、MCUのRAMサイズにより異なります。

## 2. リビジョンアップ方法

無償でオンラインリビジョンアップできます。

開発環境ホームページから最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。

日本語版

英語版

---

#### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。